

◆ ひたちオペラ合唱団 ホームページリニューアル公開！

長年、当団のホームページはそのメンテナンスが行われず、休眠状態となったままで、たいへん恥ずかしい状態が放置されてきたことに反省の念を禁じ得ません。団員の皆様始め、関係者の方々に深くお詫び申し上げます。

今般、昨年12月以来のホームページのリニューアル作業が一段落し、公開できるようになりました。

是非 URL : <https://hitachiopera.net/wp/> にアクセスしてください。ホームページ作成担当(富岡、高木、川村、半田)の皆さんには大変ご苦勞様でした。今後のメンテナンスも宜しくお願いいたします。

また、団員の皆さんには今後とも内容の充実と活用にご協力をお願いいたします。(幹事長 松本 宏)



◆ 第60回 日立市民音楽祭開催

日立市民音楽連盟主催の「第60回 日立市民音楽祭」に今年度も出演いたします。

今回の演奏曲は従来の「OPERAの合唱曲」の領域を外れ、「Musical」からの合唱曲(編曲)を演奏することにいたしました。私たちにとっても新たな領域への挑戦となります。

(1) 日 時 : 2024年11月10日(日) 10 : 30 ~ 17 : 00 (出演時刻 : 未定)

(2) 場 所 : 日立シビックセンター 音楽ホール

(3) 演奏曲 : Musical《West Side Story》Medley より(抜粋)

◆ 「第2回 オペラでよかつぺ 歌でつなぐオペラリレーコンサート」の練習予定(詳細は後報)

「歌でつなぐオペラリレーコンサート」のシビックセンター主催の練習スケジュールは下記です。

◇ 9月21日(土)17 : 00 ~ 19 : 30 ◇ 12月8日(日)9 : 30 ~ 11 : 30 ◇ 12月14日(土)(未定)(GP)

◆ 関係団体の演奏会

◇ 日立市民混声合唱団 第42回定期演奏会

(1) 日 時 : 2024年9月16日(月・祝) 14 : 00 開場 14 : 30 開演

(2) 会 場 : 日立シビックセンター 音楽ホール

(3) 入場料 : 1,000円(全席自由) 中学生以下無料他界



◆ お知らせ

◇ 【退団】高野 貞子(Alt)さん 休団中でしたが、8月31日付けで退団されました。

◇ 【休団】高橋 和枝(Alt)さん 米国在住となるためより8月1日から休団され、帰国後復帰されます。

◇ 【休団】村尾 勝衛(Bar)さん 自己都合により9月1日から休団され、2025年4月復帰予定です。

今後のスケジュール

月 日	時 間	会 場 ()は予定	指揮	ピアノ	内 容
9/ 1 (日)	17:00~19:30	大久保交流センター 4F会議室	杉原	阿部	台風10号の影響を避け中止
9/ 8 (日)	17:00~19:30	大久保交流センター 4F会議室	山舘	阿部	9月1日の代わり
9/15 (日)	17:00~19:30	中小路交流センター 第4会議室	山舘	湯本	練習場所注意!
9/21 (土)	17:00~19:30	シビックセンター 第2音楽室	豊原	阿部	リレーコンサート練習(シビック主催)
9/29 (日)	17:00~19:30	大久保交流センター 4F会議室	杉原	阿部	
10/ 6 (日)	17:00~19:30	大久保交流センター 4F会議室	山舘	阿部	
10/13 (日)	17:00~19:30	大久保交流センター 4F会議室	杉原	湯本	
10/27 (日)	17:00~19:30	大久保交流センター 4F会議室	山舘	湯本	
11/ 3 (日)	17:00~19:30	(大久保交流センター 4F会議室)	杉原	湯本	
11/10 (日)	13:30~14:30	後 報	山舘	湯本	市民音楽祭 事前練習
	後報	シビックセンター 音楽ホール	山舘	湯本	市民音楽祭出演
11/17 (日)	17:00~19:30	(大久保交流センター 4F会議室)	杉原	阿部	
11/24 (日)	17:00~19:30	(大久保交流センター 4F会議室)	山舘	湯本	

私が訪ねた世界のオペラハウス 第 60 回

ウィーンの主なオペラハウス ～ウィーンその 11～

中川 幸雄

ウィーン国立歌劇場、フォルクスオパー、an der Wien 劇場(Kammer Oper)はウィーンに行ったら必ず聴くオペラハウスです。

今回は限られた日程の中で好きな演目をととは行きませんでした。それでも国立歌劇場で《ナブッコ》、《コシファントツテ》、フォルクスオパーで《こうもり》、《魔笛》、Krypta で《NORMA》、さらに日帰りでの隣国スロヴァキアの SND(新国立歌劇場)ではドボルザークの《悪魔とケイト》の 6 公演を聴きました。

スロヴァキアの首都ブラティスラバの《悪魔とケイト》(ドボルザーク)は日本ではまず演奏されることはないおとぎ話のような、敢えていえば《ヘンゼルとグレーテル》に似たオペラで、小学生高学年から高校生くらいまでの生徒が 95%。拍手の仕方や声援の掛け方など、大人と同じですね。こういう年頃から勸善懲悪かつマナー教育の一環としてのオペラになっているようです。ここに来たのは 6 年ぶりで質素なバスターミナルは大きなビルに変わっており、案内所でオペラハウスへのバスを聞いたもののまずはビルからの出口がわからず文字は読めず、シルバーカーを押しながら右往左往。いきなり疲労困憊でした。

ウィーン国立歌劇場では入口付近の外石階段に座り込み、しばし周りの風景を眺めてみました。まず目につくのは明らかな旅行者(私もその一人ですが)。

その様々な服装が興味深かったです。日本国内でも滅多に見ない和服正装のご夫妻。さすがに短パンは見ませんでしたが半袖 T シャツの若者、東南アジアやインドと思しき独特の華やかな服装の人たち。中東の方たちでしょうか白い上衣。同じく正装は地元の名士のような方々。一人で来る人はオペラの愛好者かも。

一方当日のチケットを売ろうとする人、買おうという人。さらに別のコンサートの切符を売りさばこうとしている人たち。「Soldout」を見て帰る人たち。なるほど、あのオペラのステージのすぐ隣にはこういう現実があるんだと見とれました。今回聴いた《Nabucco》は Pandemic 期間中に無観客無料放映された演出と同じものでしたが、その時は題名役は「Domingo」でしたが今回はモンゴルの若いバリトンで抜擢されただけあってさすがの歌唱でした。《コシファントツテ》は Barry Kosky の演出(指揮 Philippe Jordan)で、「Opera 誌 9 月号の表紙を飾る」という予告が出ていましたがこの演出は私には理解できませんでした。なお、ここの字幕は自席にて言語を選べますが今回は 5 か国語で日本語はありませんでした。字幕の種類は演目によるようです。

オペレッタの殿堂フォルクスオパー。白かった外壁がうっすらとしたピンク色に変わっていました。この近くにはよく行く伝統の Café Weimer があります。今回は歩行のための体力がもたず目の前の路上のテーブルで妥協しました。an der Wien は Operabase で公演を探していた時から見つからず「おかしいな」と思っていたのですが、改装中ということで早々と来シーズンの宣伝をしていました。



ブラティスラバ 新国立歌劇場



ウィーン国立歌劇場内 Café
(経営者交替で大幅なイメージチェンジ)



ウィーン国立歌劇場 (自席より)

翔歌碧空

9 月、長月(ながつき)。September (英)、Settembre (伊)。最近は殆ど耳にすることが無くなってしまったが「二百十日」という言葉がある。立春から数えて 210 日目。今年は 9 月 1 日が相当する。昔から台風が到来する日として恐れられてきた▼台風 10 号も当初の予定では、9 月 1 日頃に関東地方に最接近とされ、そのため、運営委員会では「9 月 1 日の練習は中止」と判断したのだが、... ▼来難し屋の台風 10 号は勢力を 925hPa まで強め、進路を変え、九州地方に居座り、やがて熱帯低気圧となっても豪雨の範囲を維持し、何とも厄介な！▼思えば高校 3 年生の秋、「伊勢湾台風」が襲来し、落成式間近の体育館をペシャンコにし、伊勢神宮の杜の形が変わるまでに樹齢何百年の杉の大木をなぎ倒し、水害により大勢の被害者を生んだ▼地球の温暖化により台風の性質も様変わりするとは言え、それに対するリスク管理についても考えたいものだ。

(Hm)